

「情けは人のためならず」

粕屋西小学校 五年 石坂 依史莉

ニュースで悲しい事件や事故を、見たり聞いたりします。そんな時、今までは、「私には関係ないけど怖いな。」と思うだけでした。でも、五年生になって、もっと考えるようになりました。なぜかという担任の先生が「他の人がおこられていても、自分の事だと思って聞きなさい。」と教えてくれたからです。私は、学校で起きた身近な事も、ニュースで知った事も同じで「どうしてこんな事になったんだろう、どうしてそんな事をしたんだろう、こんな事しないようにしよう。」等いろいろ考えるようにしています。見るだけ聞くだけじゃなく、考えることが大事だと思います。

私が最近知ったことわざに「情けは人のためならず。」というものがあります。人に親切にすれば、いつかは自分にいいことがかえってくる、という意味です。「情け」とは、思いやる心や人情、人間らしい心の事です。そして、「人情」とは、人が生まれながらに持っている思いやりの心という意味です。だれでも持っている思いやりの心ですが、大事にしないと小さくなったり忘れてしまうと思います。思いやりの心が無くなると、悪い事をしたり、人をきずつけたりしてしまうのだと思います。

私は、思いやりの心をいろいろな人から教えてもらっていると思います。それは、家族やようち園の先生、小学校の先生、地いきの人たち、友達等です。直接教えてもらわなくても、見て学んだり真似していると思います。他にも本やテレビやゲームでも思いやりの心を学ぶことができます。生まれながらに持っている、学び育て大事にしないといけない事に気づきました。

私が今回「社会を明るくする運動」について考えて気づいた事は、特にむずかしい事ではなく毎日している事でした。それは、人の話をしっかり聞いて自分でも考える事。それと、思いやりの心を持って生活する事です。私はこれから「情けは人のためならず」を忘れずに、地いきや学校がもっと明るくなるようにしたいです。